



カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム “**新CFPプログラム**”について



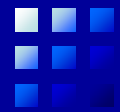
社団法人産業環境管理協会 (JEMAI)

Japan Environmental Management Association For Industry

LCA事業推進センター

カーボンフットプリントチーム長

石塚 明克



カーボンフットプリント(CFP)とは？

「製品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO2に換算して、「見える化」(宣言)する仕組み」

Carbon Footprint of Product

消費者等

廃棄・リサイクル

原材料の調達

使用・維持段階

コミュニケーション

生産

流通

事業者

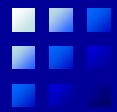
- CO2の見える化宣言
- 製品の製造プロセスの分析
- 最も排出量の多いポイント把握
- 具体的な削減努力
- その成果の公開

- 消費者は、購入・使用・廃棄に伴いどのくらいCO2を排出しているか自覚
- 積極的にCFP製品を選ぶことで、CO2削減行動に参加

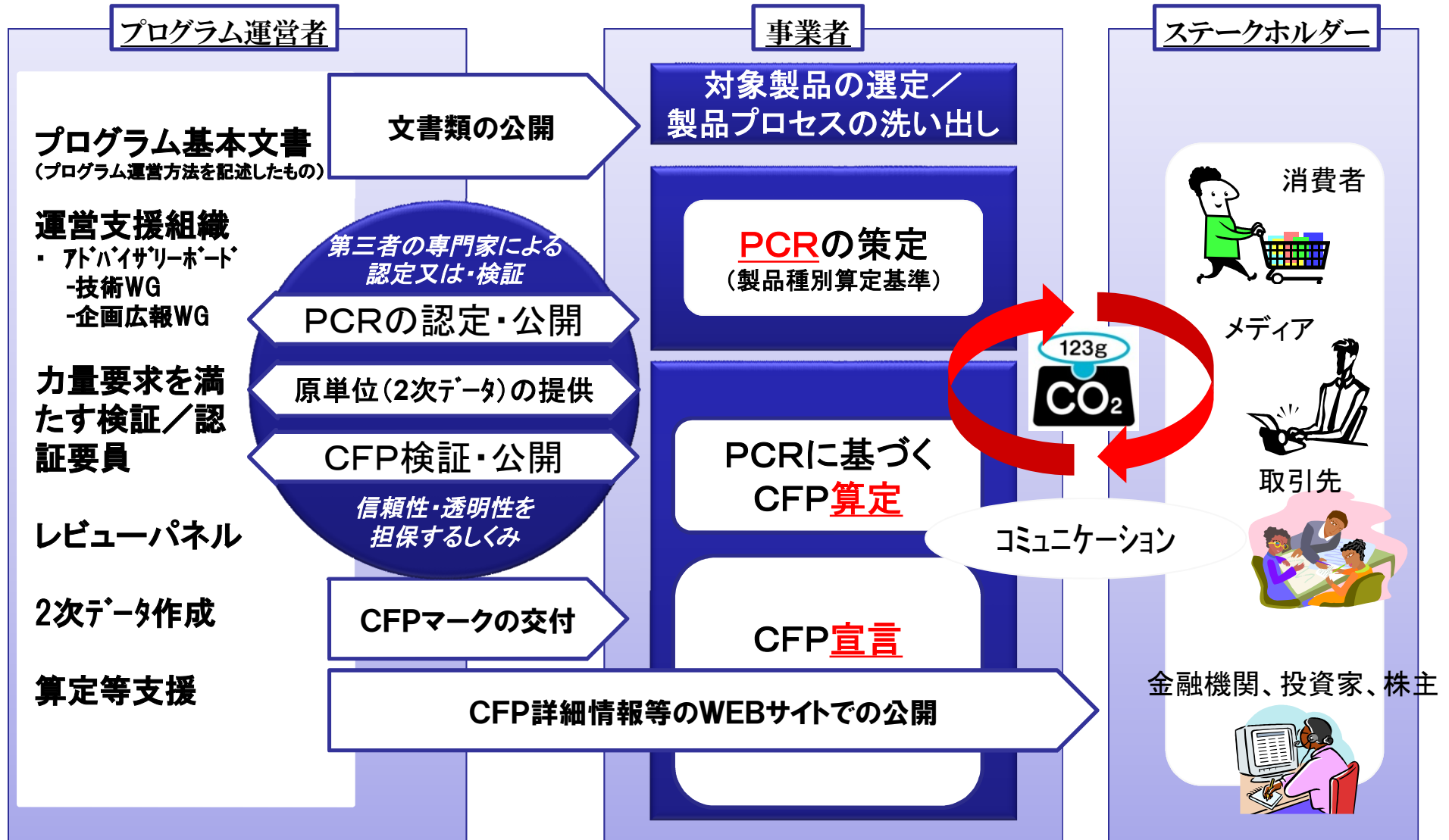
法人産業環境管理協会(JEMAI)

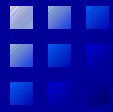


Japan Environmental Management Association For Industry



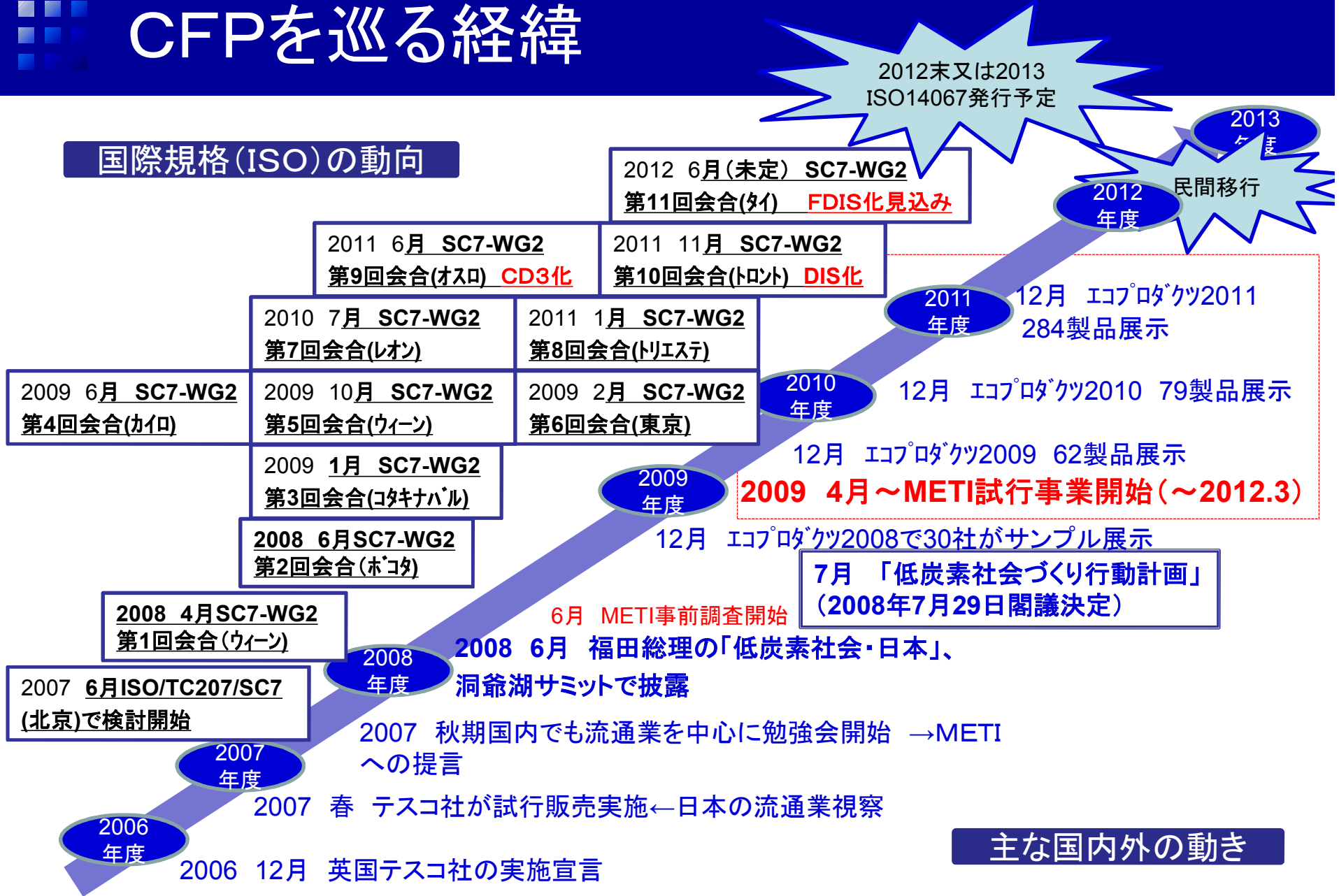
新CFPプログラムの基本構造





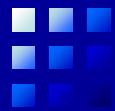
CFPを巡る経緯

国際規格 (ISO) の動向

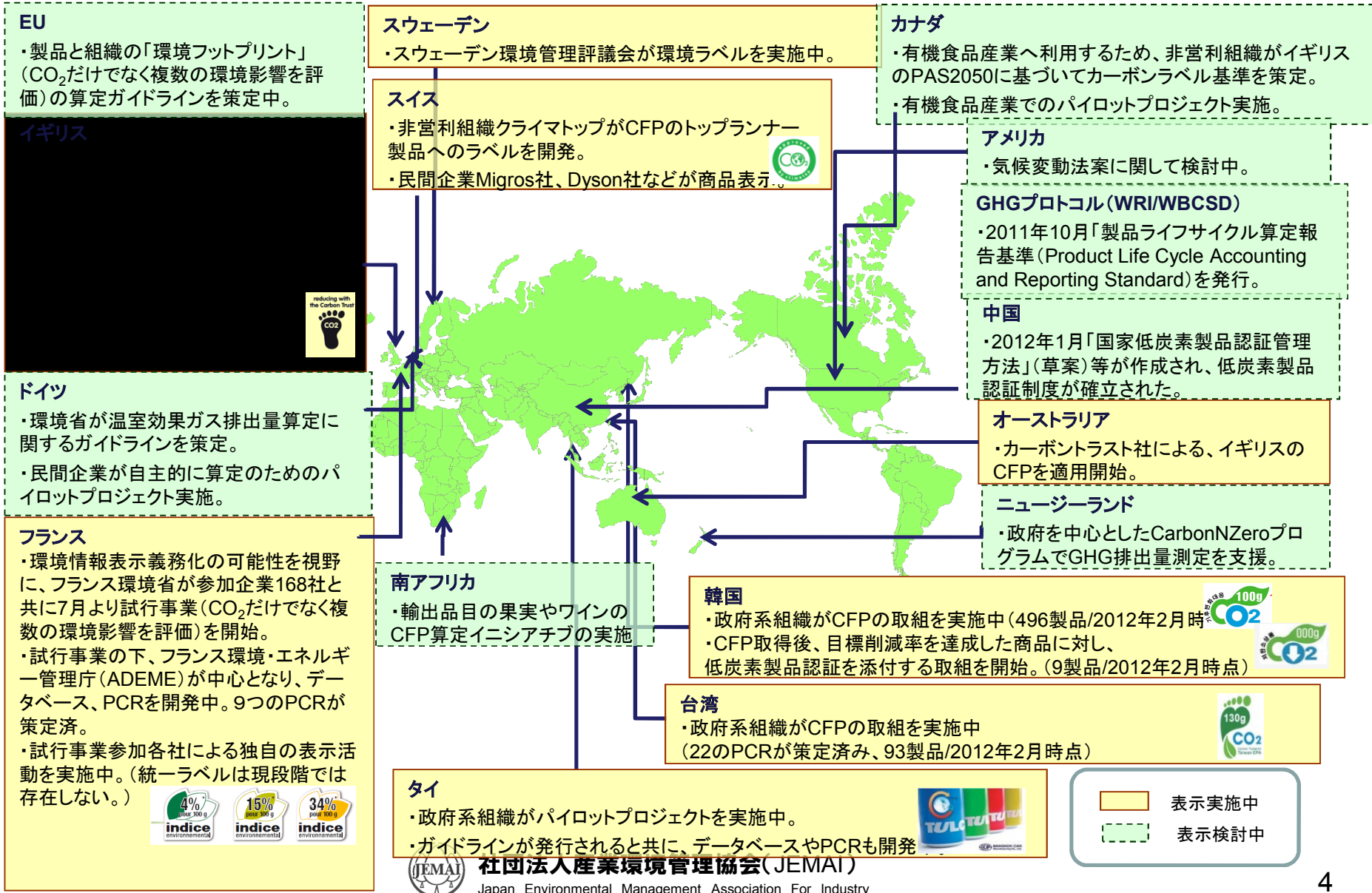


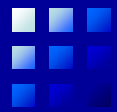
主な国内外の動き





世界各国におけるCFPの動向





国の試行事業での成果

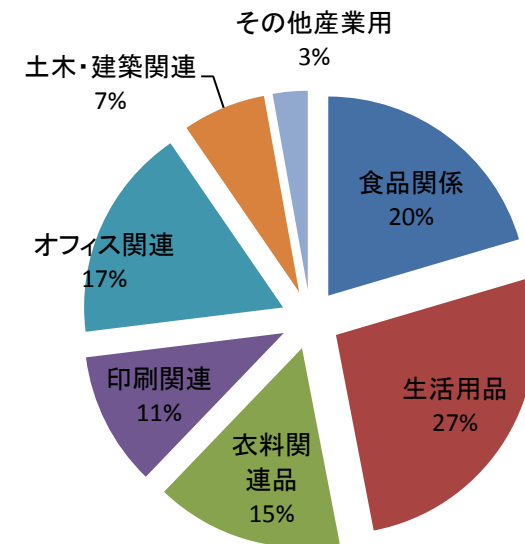
- 実績

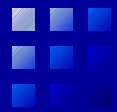
- 製品種別算定基準(PCR) 認定数 73
- CFP検証 認証商品数 460製品(約100社)

- 特徴

- 食品、生活用品、衣料品、印刷、オフィス関連の認証商品が多い。
- 複雑なサプライチェーン構造を有するエネルギー使用製品の参加が少ない

- プログラム運営に繋がる各種文書類
- 共通原単位データベース
- 検証／認証に関する人材、機関等の蓄積
- 消費者、小中高向け環境教育教材
- 情報公開用WEBサイト





CFP試行事業総括シンポジウム

2月23日(木)に、3年間のCFP制度試行事業の総まとめとして「総括シンポジウム」を開催。シンポジウムでは、CFP関連の専門家や参加企業を招いて3年間のCFP試行事業の成果をご報告し、イギリス、フランス、アメリカ、韓国からCFPの実施企業の実務者等を招いて、世界のCFPや関連活動の現状についてご紹介。当時の会場参加約500名。ニコニコ動画では、約300名が生中継で視聴。



開場前から多数の方がお待ちいただきました。



会場内は、熱気ムンムの満員御礼状態

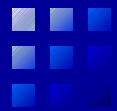


会場のホールには、CFP製品を陳列



海外からも各国のCFP事業等の動向について御報告





試行事業を通じていただいた意見

ポジティブ意見

- － グローバル市場での環境規制対応等から有効
- － CSR、情報開示、トレーサビリティ対応の観点から有効
- － 将来的に、消費者の選択購買、取引先選考の基準のひとつになる可能性あり
- － サプライチェーン全体でのCO₂排出量のホットスポットの見える化やその改善のための対策に有効

ネガティブ意見

- － 企業経営にとっての経済的メリットが不明／社内コンセンサスが困難
- － 費用対効果が見込めない(データ収集、算定等が複雑、困難。労力、コスト面での負荷が大きい)
- － 業界コンセンサスが困難(スキル、環境対応レベルの相違)
- － 上流企業からのデータ収集は事実上不可(データベースの充実)
- － 検証基準、方法等が制度上不明瞭で、運用が厳しすぎる。
- － 消費者等への訴求方法(削減効果アピール等)が確立できていない
- － CO₂のみでの環境影響評価は、リスクが大きい。多様な環境影響領域での評価が必要

認知度
が低い





新CFPプログラムとして継承・継続

2012年度からは、社団法人産業環境管理協会が国のCFP制度試行事業の成果を引き継ぎ運営してまいります。

経済産業省

(農林水産省)
(国土交通省)
(環境省)

2008年度 CFP制度構築事前調査

2009-2011年度 CFP制度試行事業

2012年度から(社)産業環境管理協会が継承／運営

正式名称:カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム



— CO₂の見える化とその削減努力の宣言 —



社団法人産業環境管理協会(JEMAI)
Japan Environmental Management Association For Industry



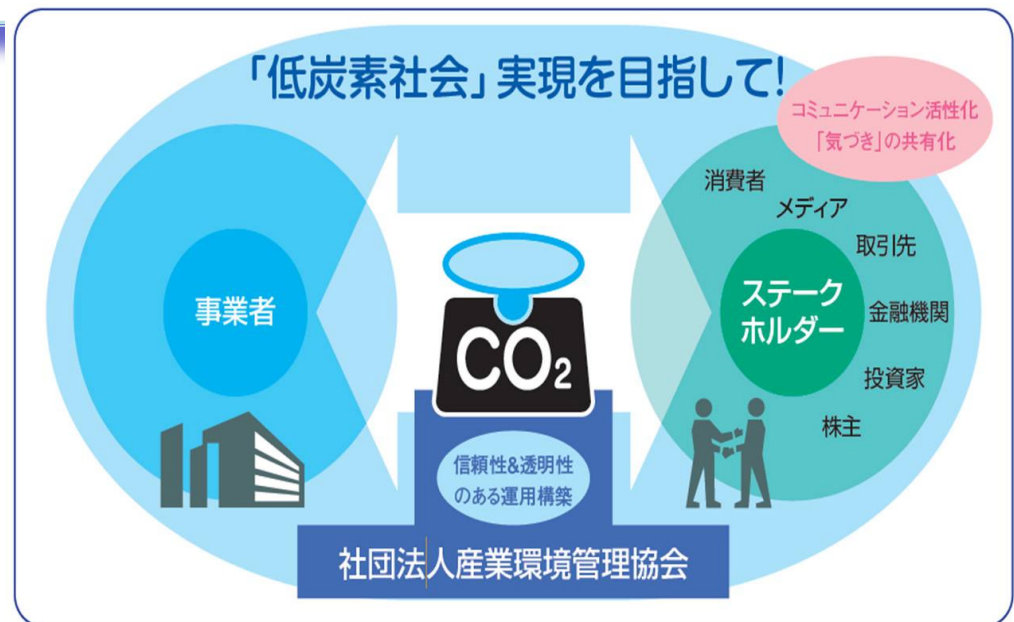
新CFPプログラムの目的

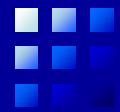
試行事業で掲げられた以下の目的達成を継承し、発展させて参ります。

1. 製品(サービスを含む。)のCO₂排出量を「見える化」する。
2. 事業者と消費者の間でCO₂排出量削減行動に関する「気づき」を共有する。
3. 「見える化」された情報を用いて、事業者がサプライチェーンを構成する企業間で協力して更なるCO₂排出量削減を推進する。
4. 「見える化」された情報を用いて、消費者がより低炭素な消費生活へ自ら変革していく。

CFPコミュニケーションプログラム

CFP communication





新CFPプログラムの適用範囲等

製品の対象範囲:

本プログラムが対象とする製品範囲は、日用品その他の工業製品、耐久消費財あるいは食品その他の農林水産業製品、サービスなど、あらゆるものを含む。また、それらは最終製品に限定されず中間製品であってもよい。

算定対象とする温室効果ガス:

温室効果ガス種類 CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆の6種類(京都議定書で対象となっている温室効果ガス)

- ・対象排出源 自然由来(家畜、その他の農業プロセスによる放出など)を含む
- ・GWP(*) IPCC第二次報告の100年値(京都議定書における国別排出量の算定基準)

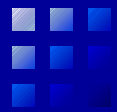
(*)GWP(Global Warming Potential地球温暖化係数):温室効果ガスの温室効果をもたらす程度を、CO₂の当該程度に対する比で示した係数。

算定範囲:

算定範囲としては、製品の機能を満たす範囲でありかつCO₂排出量への寄与の大きさの観点から無視できないプロセスを含めるよう設定しなければならないものとする。

また、算定範囲の決定に当たっては、システム境界の概念を導入し、ライフサイクルの段階ごとに算定対象範囲を定める。





CFPの算定方法

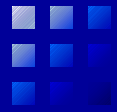
算定に関する基本的ルール

CFPにおけるCO2排出量の算定方法は、一般に以下の式に従って、②の測定範囲内の各プロセスで算定され、合算される。活動量、原単位の例は以下の表のとおり。

$$\text{CO2排出量} = \sum (\text{活動量}_i \times \text{CO2排出原単位}_i) \quad ; i \text{ はプロセスを指す}$$

プロセス名	活動量の例	原単位の例
原材料調達	素材使用量	素材1kg 当たりの生産時のCO2排出原単位
生産	組立て重量	重量1kg 当たりの組立て時CO2排出原単位
	生産時電力消費量	電力1kWh 当たりCO2排出原単位
流通・販売	輸送量(kg・km)=輸送距離×積載率×トラックの積載量	商品の輸送量1kg・km 当たりのCO2排出原単位
使用・維持・管理	使用時電力消費量	電力1kWh 当たりCO2排出原単位
廃棄・リサイクル	埋立重量	1kg 埋立時のCO2排出原単位
	リサイクル重量	1kg リサイクル時のCO2排出原単位





PCR (Product Category Rule : 製品種別算定基準)

PCRの策定

各段階におけるCFPを算出するには、まず、PCRを定める必要がある。PCRは、同一商品種における、共通の算定基準であり、以下の内容で構成される。

大項目(例)	小項目(例)
対象商品・サービスの定義	商品・サービス種類 算定範囲(ライフサイクルステージ、システム境界)
各ライフサイクルステージの設定	各ステージで収集するデータ項目 配分方法(アロケーション) カットオフ基準 廃棄・リサイクルの考え方(シナリオ設定等) など
LCA計算	使用する原単位 など
表示方法	ラベル表示位置、サイズ 追加表示項目 など

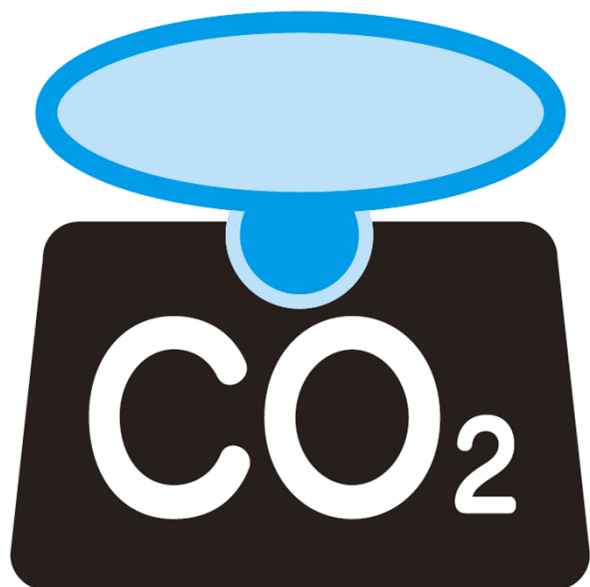




CFPマークについて

“CFPプログラム参加マーク”

— CO2の見える化と、その削減努力の宣言 —



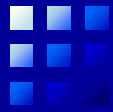
＜マーク作成者からのメッセージ＞
“秤”をモチーフに、デザインしてみました。
CO2は見えないものですが、見る人に意識的に「量っている」イメージが伝わればうれしいです。

経済産業省をはじめとした国の4省庁が、2009年度－2011年度にかけて実施している「カーボンフットプリント制度試行事業」において用いているマーク。

民間移行にあたって、国から継承し、新たに“CFPプログラム”参加マークとして、また、数値表示や認知度向上のためのシンボルとして、弾力的かつ多様な活用を展開し、広く国内外への認知度向上を図る役割を担う。

あ、このマーク！





CFP宣言の方法

マークを利用した製品への表示例
(数値表示、追加情報表示)

カーボンフットプリント試行事業
<http://www.cfp-japan.jp>
 検証番号:CV-AC02-004

洗濯 1 回当たり (水位 60L) の
CO₂ 排出量は 280 g です。

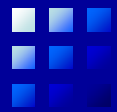
さらに、各事業者の皆さんは自社のホームページで公開されている内容まで、「読まれる方」の理解につながる適正な表示を推進

WEBサイト上への表示例
(詳細情報)

詳細情報 <最終財>
(Webサイト公開資料)

1. 製品情報			
1.1	検証番号	CV-BW01-003	
1.2	製品名称	菌床しいたけ240gトレイ	
1.3	製品型式	-	
1.4	製品の主要仕様・諸元	広葉樹のオガ屑(ワコ屑)と少量のフスマ、雑穀など、栄養源を配合して固めたブロック状の培地に種菌を接種し、一定の温度管理のもとに栽培したしいたけを240gトレイ及びラップで包装したものです。	
1.5	CFP算定単位	単位重量当たり(100グラム当たり)	
2. 事業者情報			
2.1	事業者名:	久保興業株式会社	
3. CFP算定結果および表示方法			
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	463g 単位量あたりCO ₂ 排出量	
内訳(ライフサイクル段階別)			
3.2	原材料調達段階	2.16E-02 kg-CO ₂ e	
	生産段階	3.85E-01 kg-CO ₂ e	
	流通段階	1.98E-02 kg-CO ₂ e	
	使用・維持管理段階	2.03E-02 kg-CO ₂ e	
	廃棄・リサイクル段階	1.61E-02 kg-CO ₂ e	
CFPマークへの表示方法			
3.3	マーク本体 (必須情報部) の記載内容	<記載内容> 生しいたけ100g当たり 463g	
		<表示方法の種類> 単位量あたりCO ₂ 排出量	
3.3	追加情報表示部 の記載内容	栽培データ:2010年1月~2010年12月 CO ₂ 排出量には、調理及び冷蔵保存による排出量を含む。 販売単位(出荷時240g)当たりCO ₂ 排出量:1.11kg 栽培時のCO ₂ 排出量低減のため加温設備用燃料の一部は木質ペレットを使用しています。	
	3.4	備考	

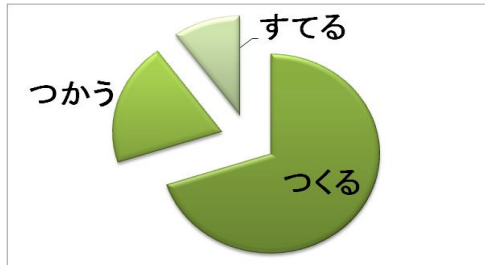




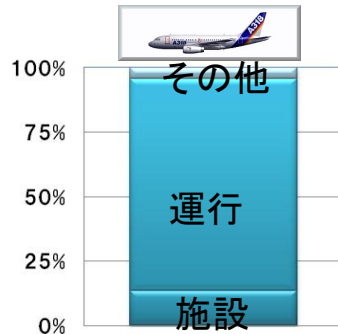
CFPコミュニケーションイメージ

「読まれる方」の理解を意識して楽しく解説、自信を持って宣言

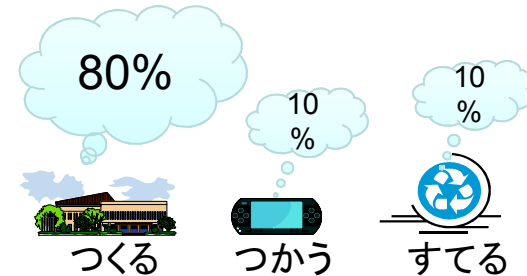
イメージ



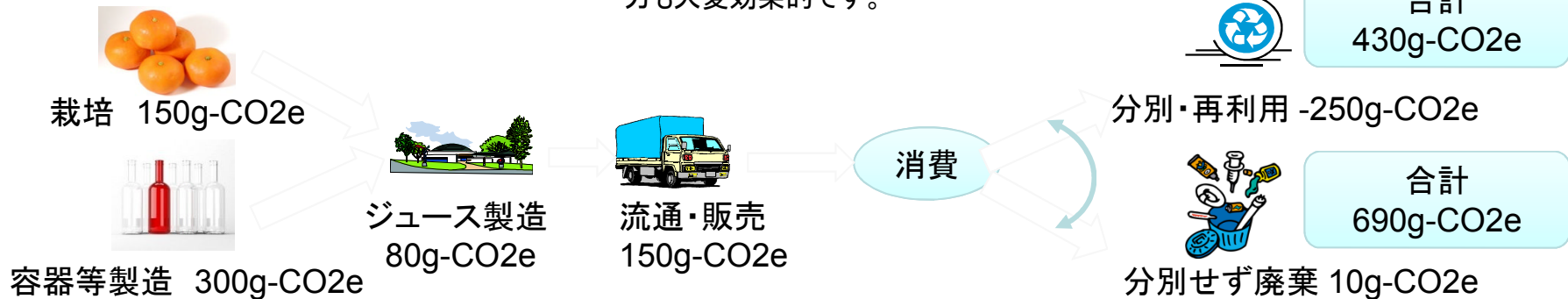
つくる段階の影響が大きいため、製造段階での温室効果ガス削減を努力しています。



運行段階での影響が圧倒的に大きいため、省エネ性の高い機材の導入、運行に配慮しています。また、お客様の定時運行へのご協力も大変効果的です。

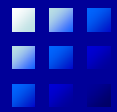


「つくる」の段階で20XXまでに〇〇%削減します。(宣言)

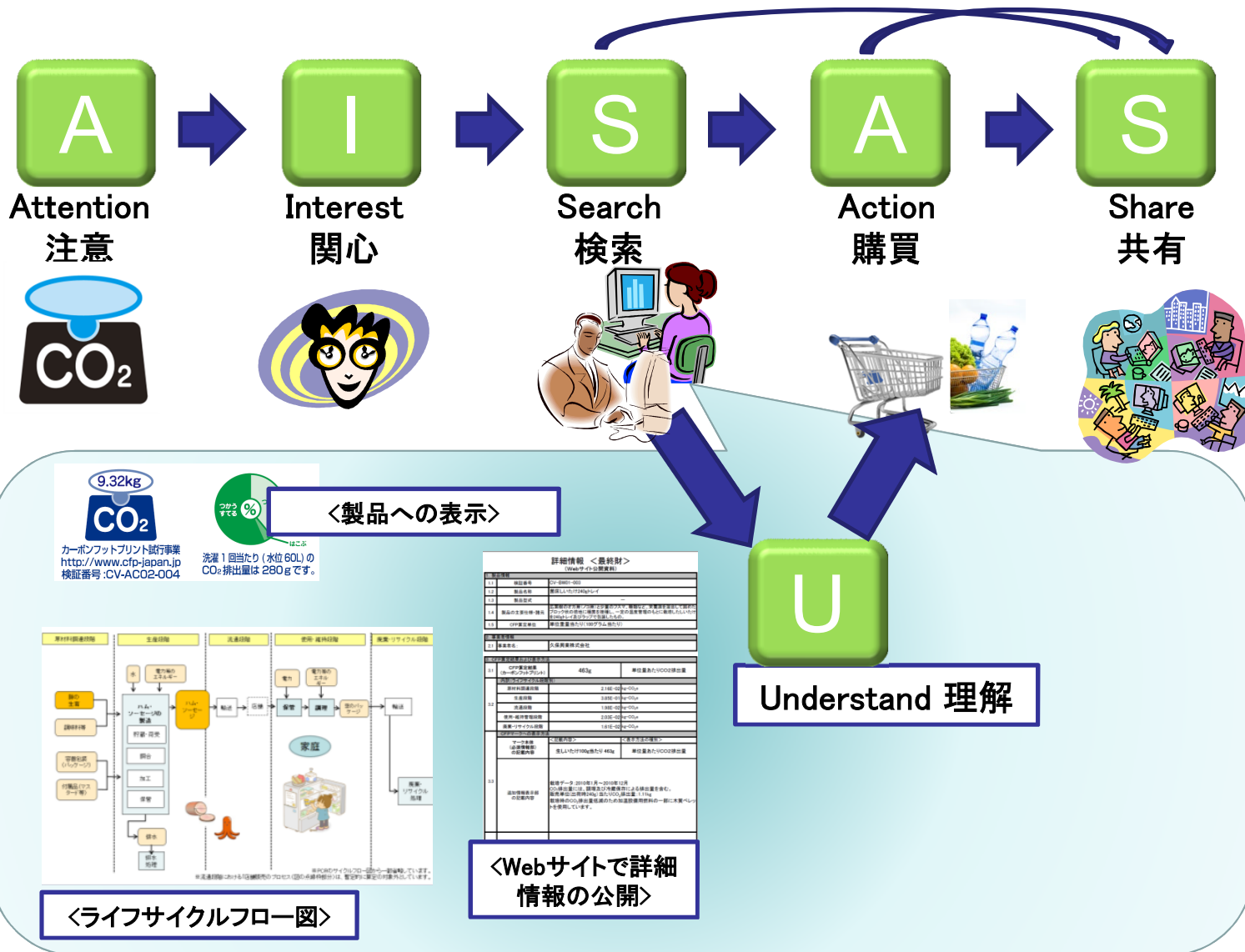


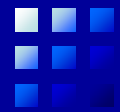
瓶容器の製造によるCO2排出量が多いですが、分別回収にご協力くださることにより、その影響を削減することができます。





CFP宣言と消費者行動への期待





試行事業を通じて得た課題への対応

新CFPプログラムでは、試行事業を通じて得た課題について信頼性・透明性の確保に配慮し十分に検討した上で、より事業者の皆様が利用しやすく、消費者等あらゆるステークホルダーの皆様が「CO₂の見える化」情報を得やすくなるようスキーム全体をより弾力的に推進して参ります。

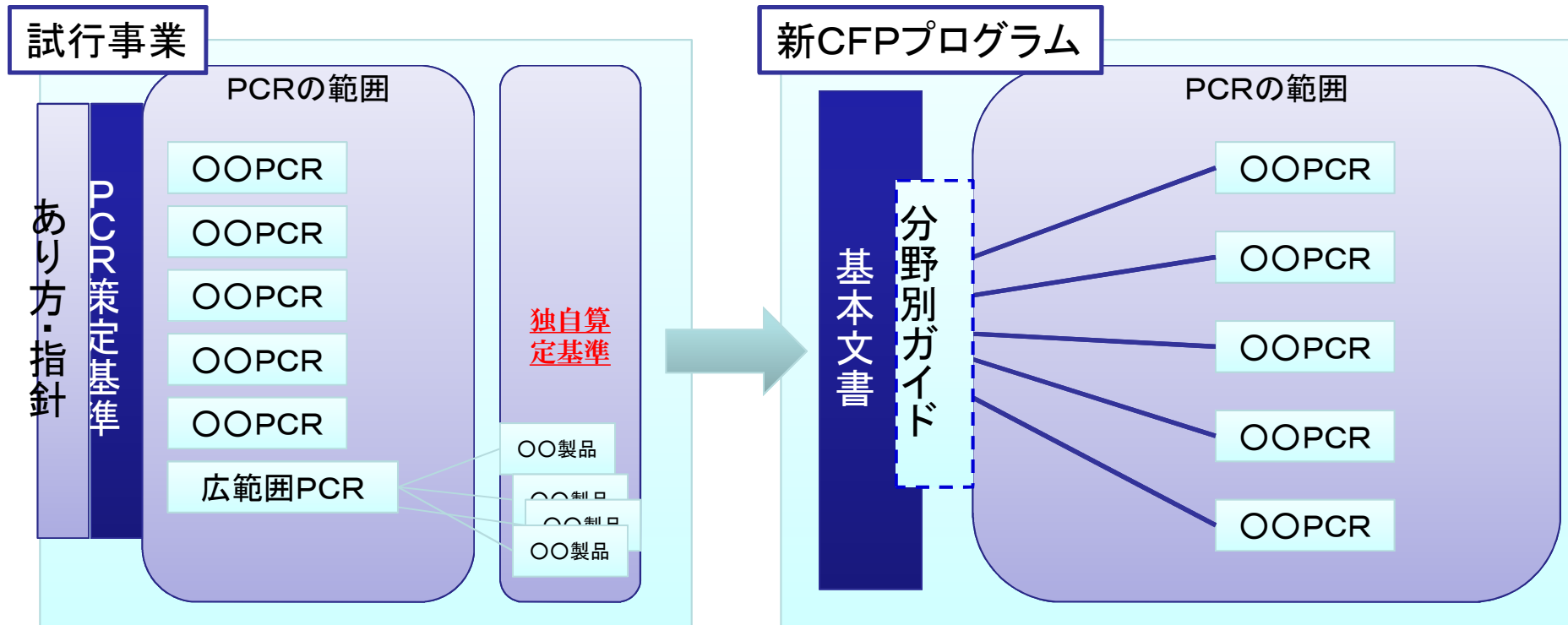
- (1) PCR策定の合理化と認定期間のスピードアップ
- (2) 検証方法の多様化と検証期間のスピードアップ
- (3) 2次データ使用の運用見直しによる参加要件緩和
- (4) CFPマーク利用の弾力化とコミュニケーションの促進
- (5) その他の対応



PCR策定の合理化と認定作業のスピードアップ

PCR策定の合理化

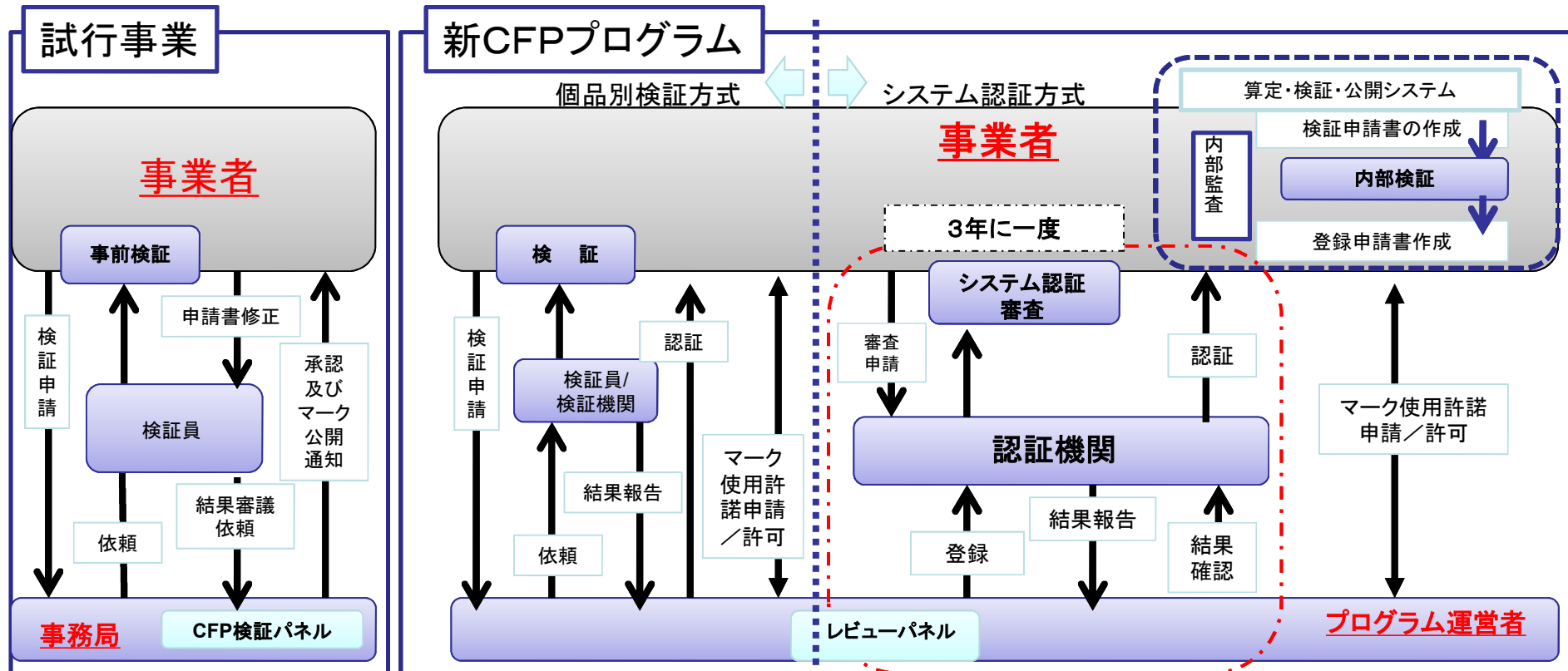
- 試行事業で認定済のPCRの分析により、その「共通項」を可能な範囲で基本文書(PCRの策定基準)の付属文書「**分野別ガイド**」として整えることにより、PCR策定の要求事項が合理化され、作業がスピーディになる。
- PCR「**認定申請から認定まで最短15日間**」の運用を目指す。
- PCRの策定主体は、従来のWG方式だけでなく、**個社での策定も可能**とする。(策定PCRは、利害関係者の意見を聞いた上で、公開する。)
- PCRの策定に当たっては、プログラム運営者の**一定の関与(PCR間の整合)**で作成することが望ましい。



検証方法の多様化と検証作業のスピードアップ

検証方法の多様化とスピードアップ

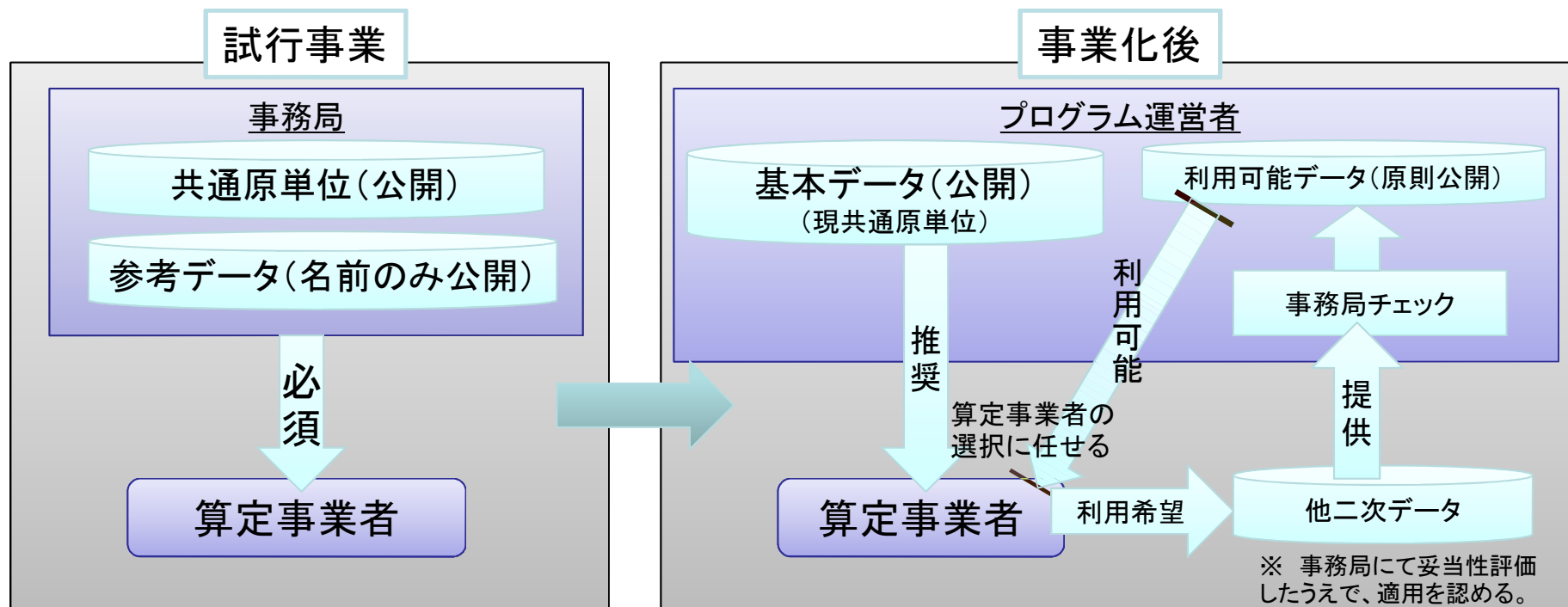
- システム認証制度を採用し、個別検証と2つの検証方式とする。
- 個別検証は、プログラム運営者に登録する「検証員」又は「検証機関」が認証。システム認証は、システム認証機関が「認証行為」を行う。
- プログラム運営者においては、「レビューパネル」を設置し、内容確認のみ実施。
(将来的には、工数削減のための廃止)
- スピードアップ⇒CFP検証申請から認証までに要する日数を「10日間程度」を目標とする。

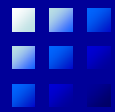


2次データ使用の運用見直しによる参加要件の緩和

2次データ(基本データ、参考データ)使用の運用見直し

- 試行事業での、**共通原単位は、「基本データ」として公開・活用する。**(「基本データ」との性格からその取り扱いは、絶対的なものではなく、CFP算定事業者の判断で、利用を判断できる。)
- また、CFP算定者から、別の2次データ利用希望があった場合は、「**利用可能データチェック基準**」に照らしてその適格性についてプログラム運営事務局にて判断(データチェック一部有償)した上で、その使用を認める。**(「利用可能データ」と称する)**。なお、既存の参考データも利用可能データとする。
- 事務局は、利用可能データの一覧を公開する。
- これにより、事業者自らが保有するデータの活用が可能となり、CFP参加事業者の増加が見込まれる。

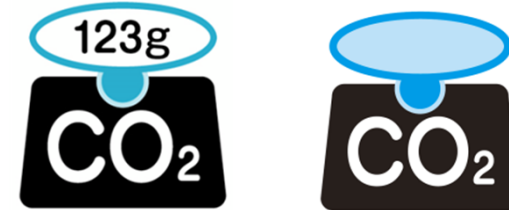




CFPマーク利用の弾力化とコミュニケーションの促進

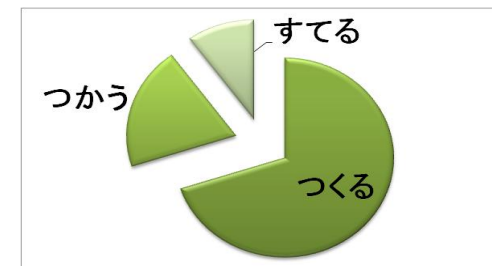
◆CFPマークによるコミュニケーションの促進

- ・ CFPマークは、国の試行事業で用いたマークを継承。
- ・ “CFPプログラム参加マーク”としての認知度向上促進
- ・ 使用範囲の弾力的運用
 - ①中間財等への使用、②啓蒙・啓発活動への活用など
- ・ 使用者との「使用契約書(仮称)」締結による不正使用等防止
- ・ マークへの絶対値表示は、製品の特性等踏まえ、事業者の判断に任せる



◆CFPマークを補完するコミュニケーション

- ライフサイクル思考に基づいたコミュニケーションを促進するため、ライフサイクルを示すもの(例:構成比グラフや抽象化したフロー図)の表示を推奨
- 算定結果の読み取り方(ライフサイクル全体を評価していること、検証は受けているが、不確実性が含まれていること等)を、数値の読み手へ向けて積極的にコミュニケーションを図る。
- 表示された算定結果が、唯一無二の結果と誤解されないようプログラムホルダーとして算定の限界を明確にし、事業者側の結果公開にかかるリスクを除外するよう配慮する。





有効期限等

認定・検証の有効期限等

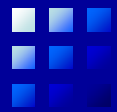
- CFP－PCRの有効期間 5年間
- CFP検証の有効期間 3年間
- CFP登録・公開の更新 1年ごと
- 基本文書の定期的レビュー 5年間に一度

試行事業での以下の期限に関する経過措置

- PCR原案策定計画の登録に関する有効期限
← 平成24年3月31日
- 認定PCRの有効期限
- CFP検証の有効期限
- CFPマークの使用許諾の期限
- システム認証の有効期限
← 平成25年3月31日

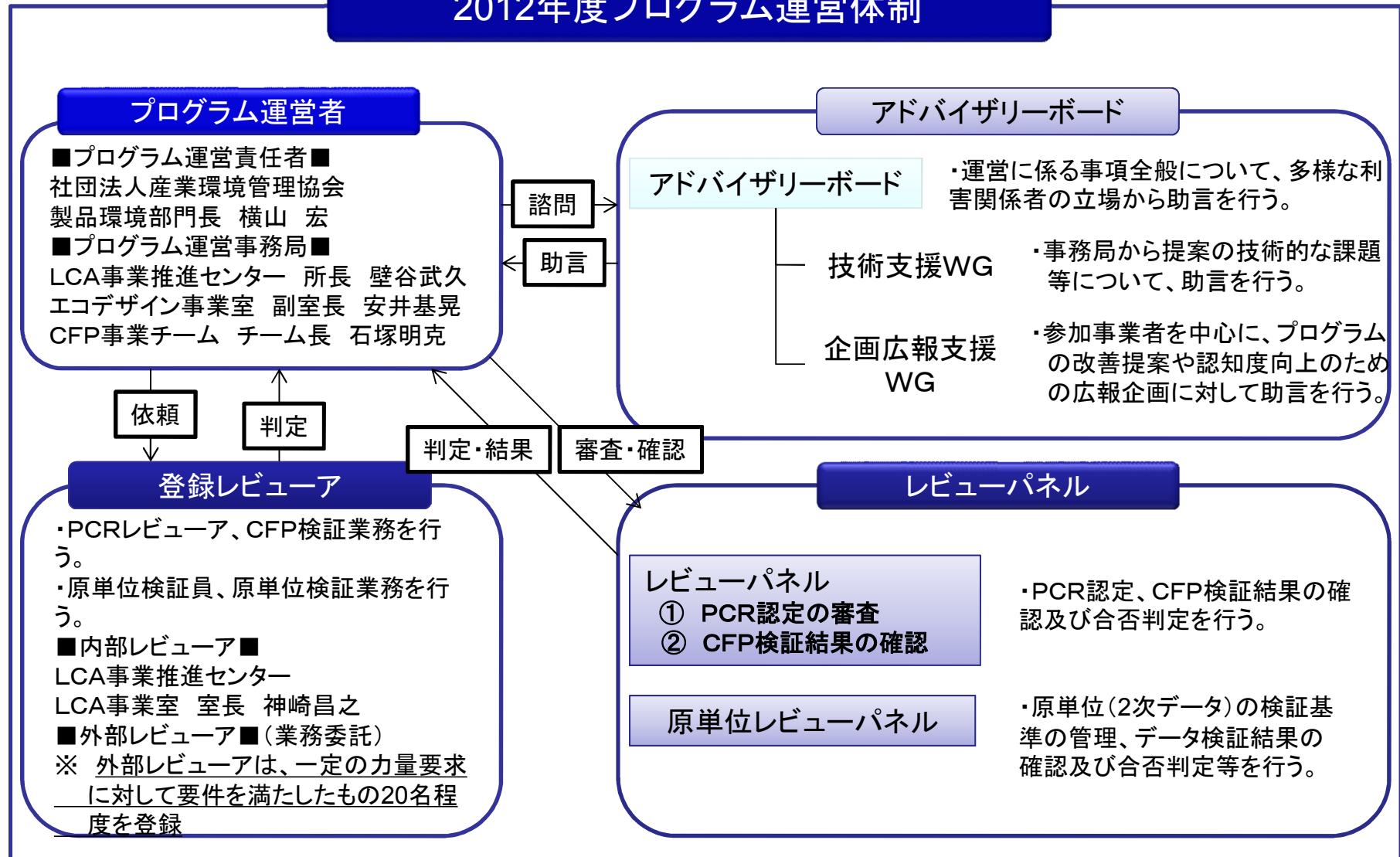
※ システム認証については、最新版のPCR適用を内部で確認。PCR拡大の場合には、新たに審査を要する。

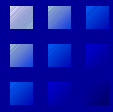




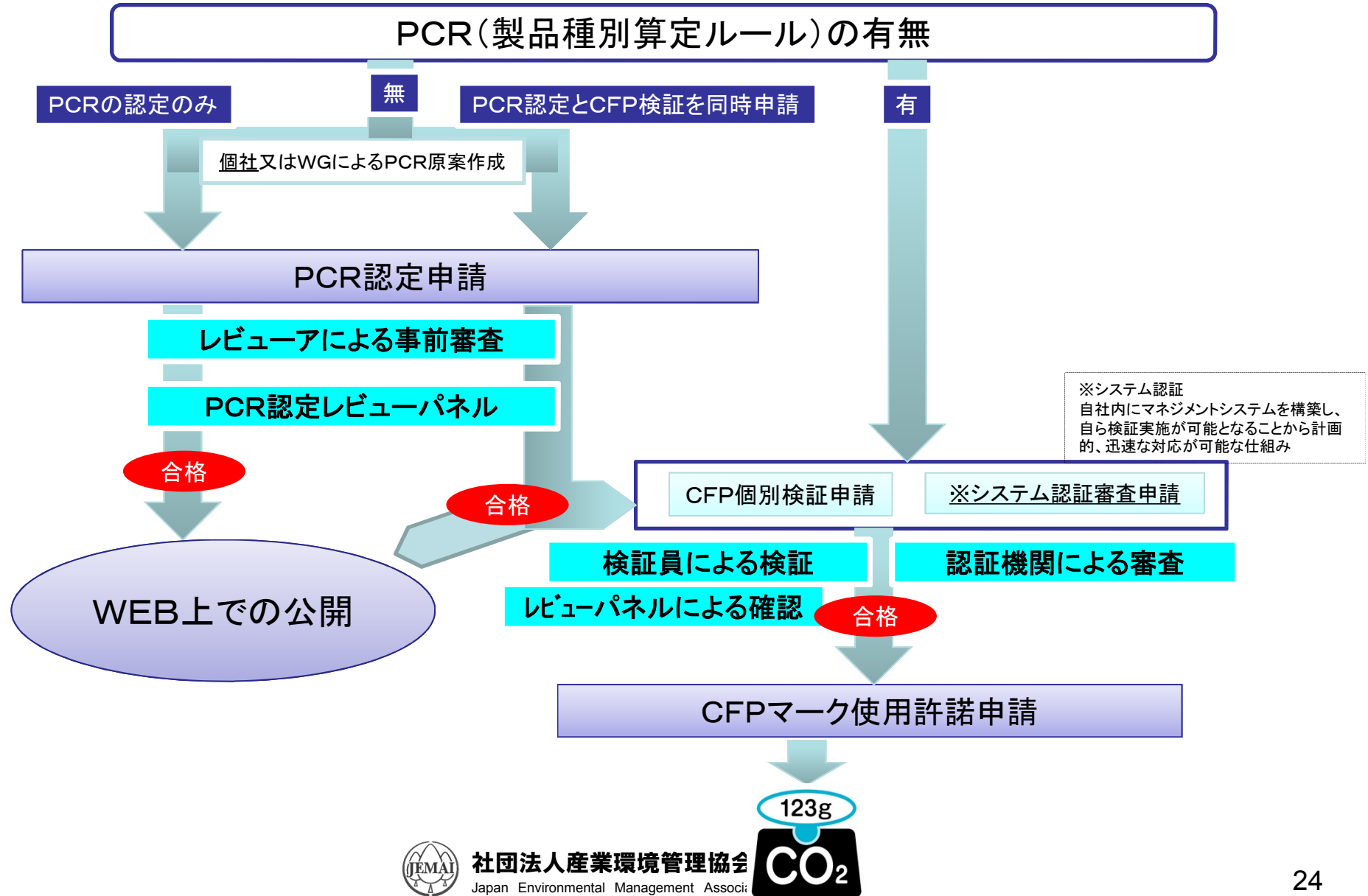
2012 新CFPプログラム運営体制

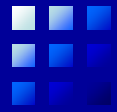
2012年度プログラム運営体制



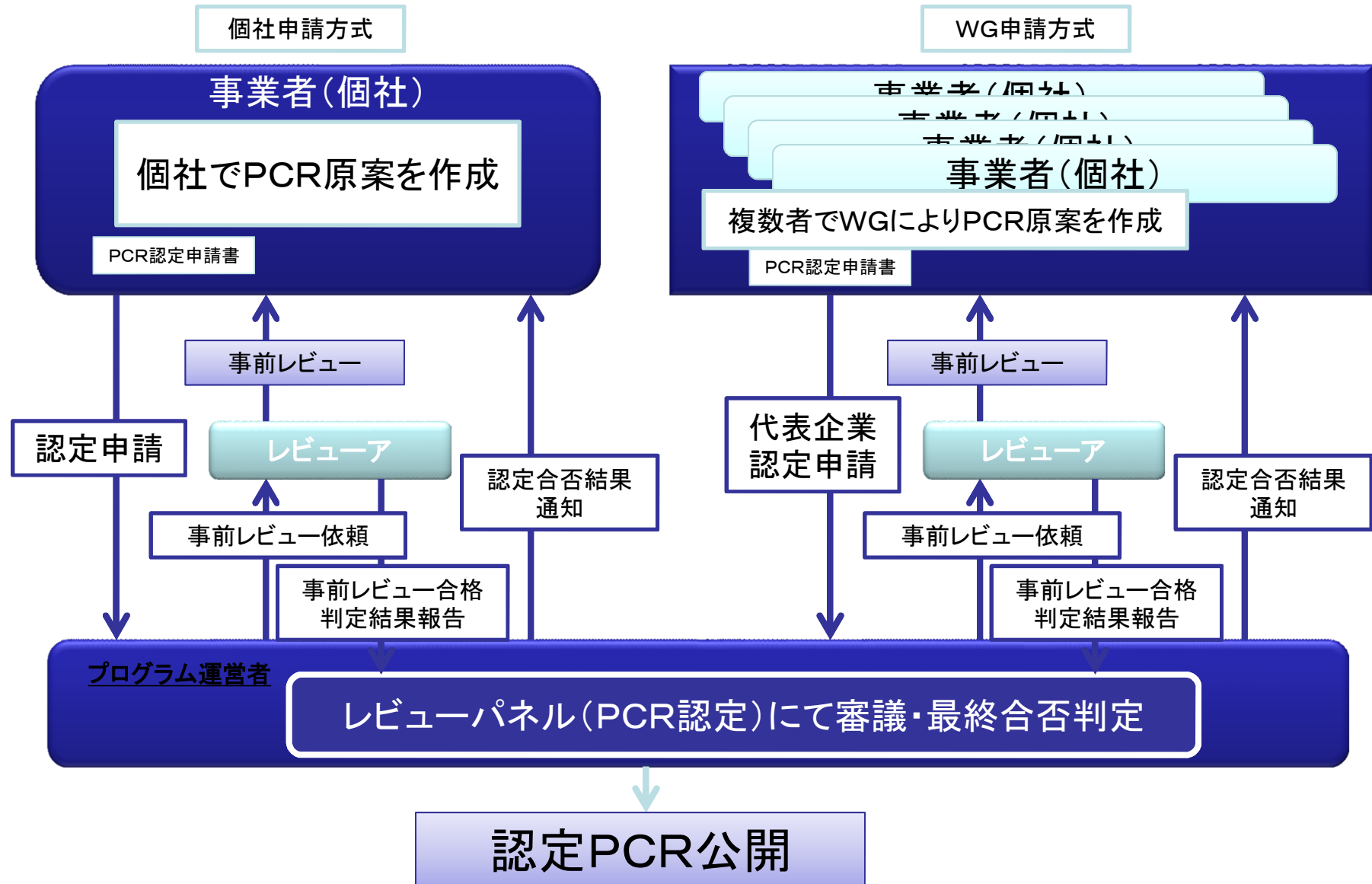


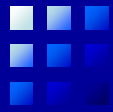
新CFPプログラム運用スキーム図(基本イメージ)



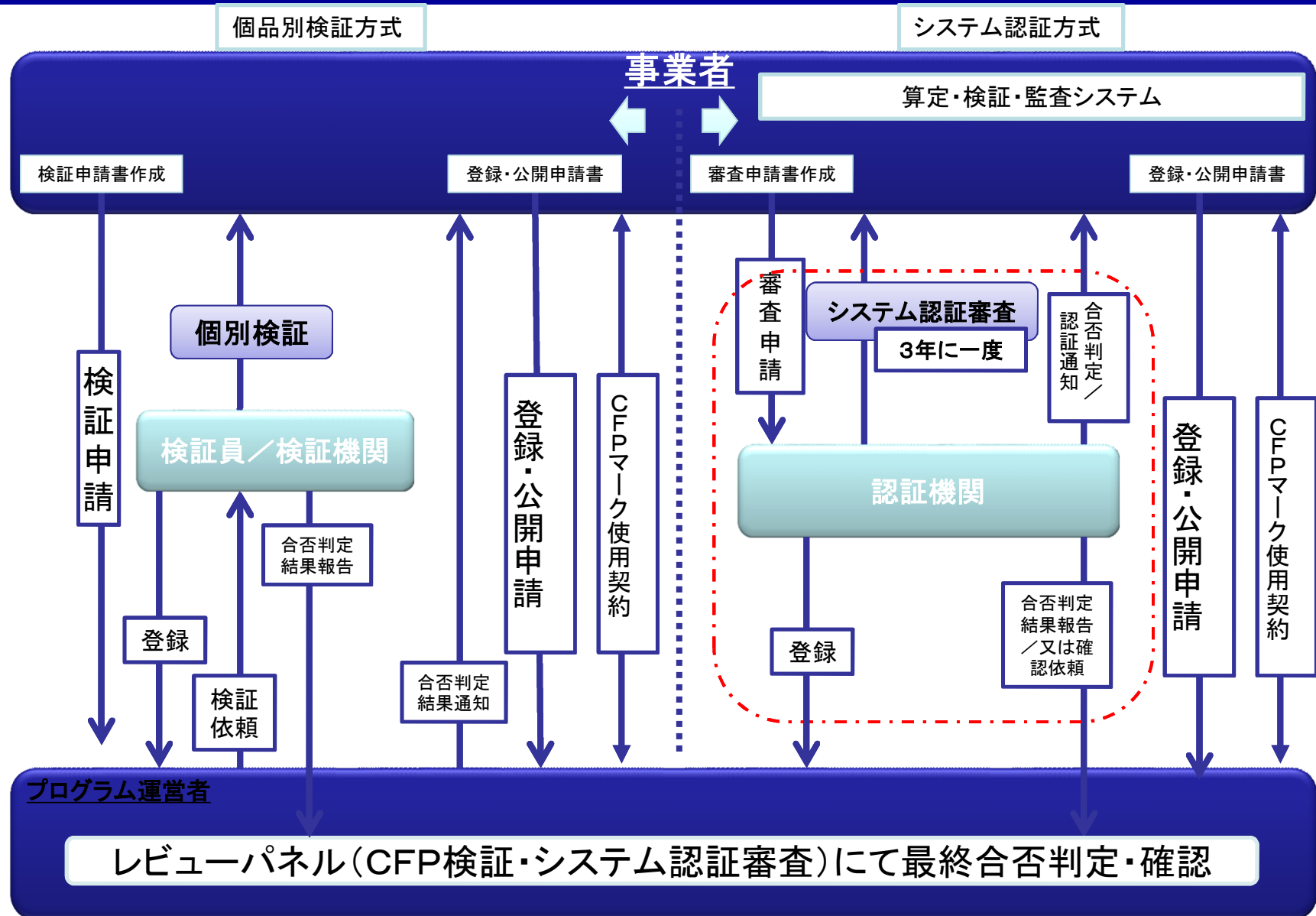


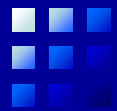
新CFPプログラム運用スキーム図(PCR認定)



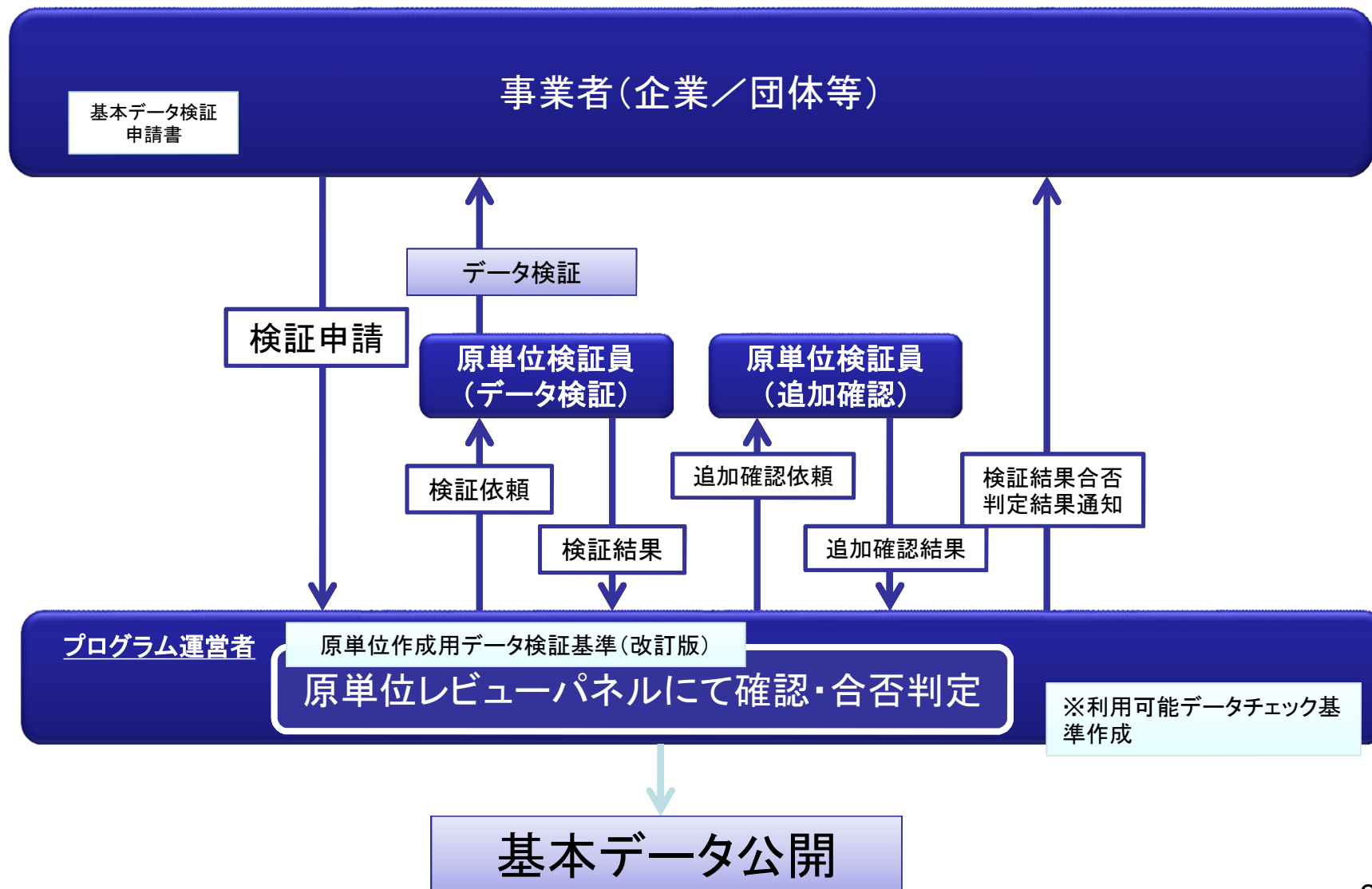


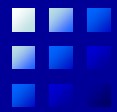
新CFPプログラム運用スキーム図(CFP検証)





新CFPプログラム運用スキーム図(原単位)案





新CFPプログラムに参加するための支援活動

CFP取得をはじめて目指す事業者の、皆様向けに多彩な支援機会を設けることとして
います。(有償) コンサル事業は、民間のコンサル機関等の協力のもと、支援させ
ていただきます。



CFP算定支援研修

- CFP概論、CFP算定演習、CFP検証申請書作成
- 所要時間0.5日又は1日



CFP算定支援相談会

- CFP算定、マーク取得に関する定期相談会
- 1時間単位で延長可



CFP算定支援コンサル

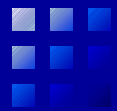
- CFPの取得に関する個別企業コンサル
- エキスパートの紹介

プログラム内支援



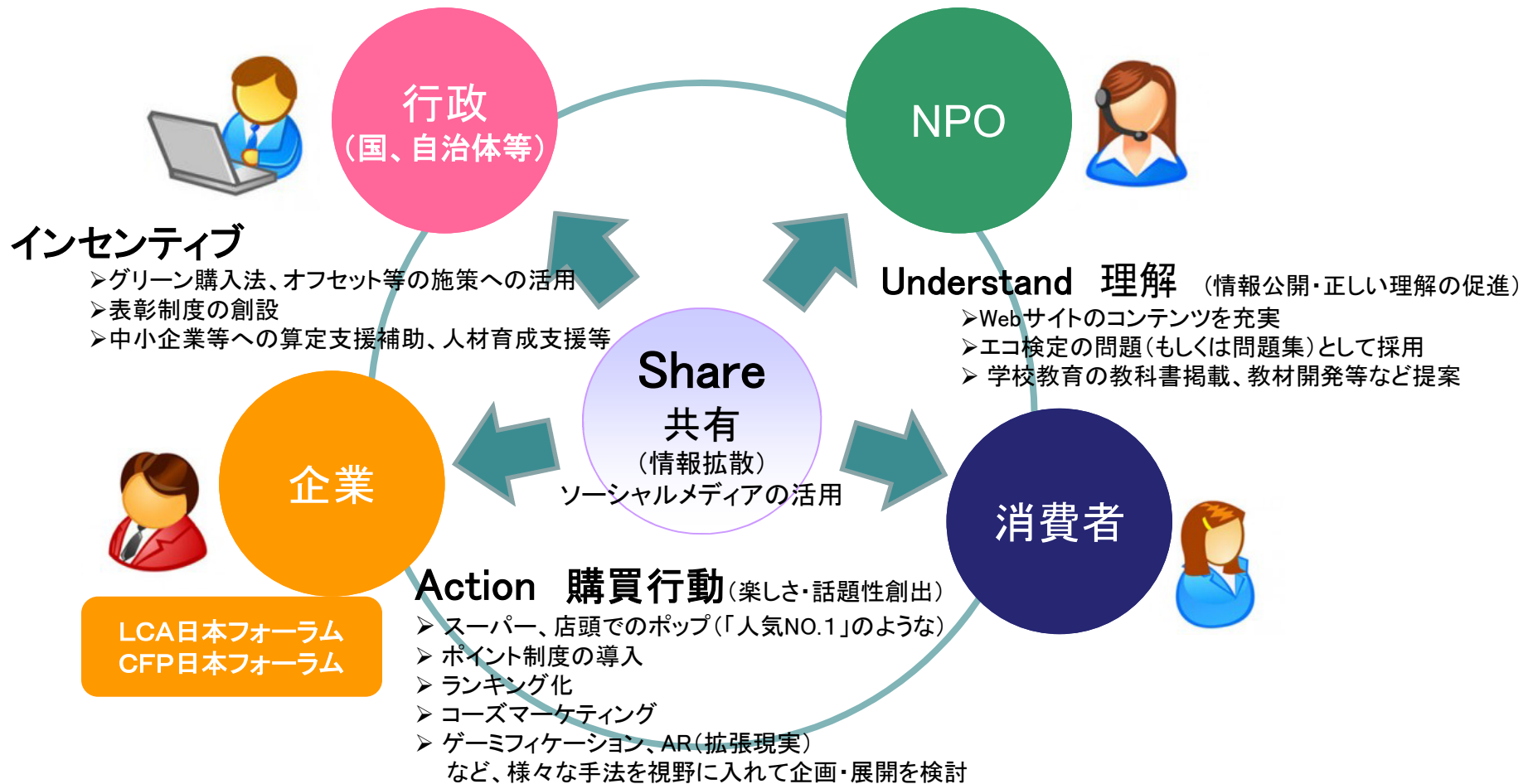
民間市場

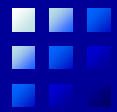




広報普及活動

JEMAIがネットワークのハブとなり、ステークホルダー間の連携を支援
消費者行動の視点からさまざまな施策を展開





市場調査活動

◆ 認知度調査の継続

マーク付商品の市場導入に伴い、消費者等需要者側の受容性調査
“めざせ、認知度50%”

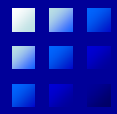
◆ マークの不正使用等の防止

マーク付商品の宣言方法について不正使用が生じないように現場調査
等実施、WEB上での実名公開等

◆ 海外動向調査

海外の環境規制等（EU環境フットプリント、TSC、GHGプロトコル等）の
動向について、JEMAIの有するネットワーク機能をもとに情報収集。適
宜、情報発信





国内外のプログラム運営者等との連携、交流活動

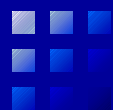
◆ 国内他制度との連携／交流

グリーン購入法、グリーン購入ネットワーク(GP N)、カーボンオフセット関係機関等他の環境配慮製品の需要創出事業等のプログラム運営者との交流や連携を推進

◆ 海外プログラム運営機関との連携／交流

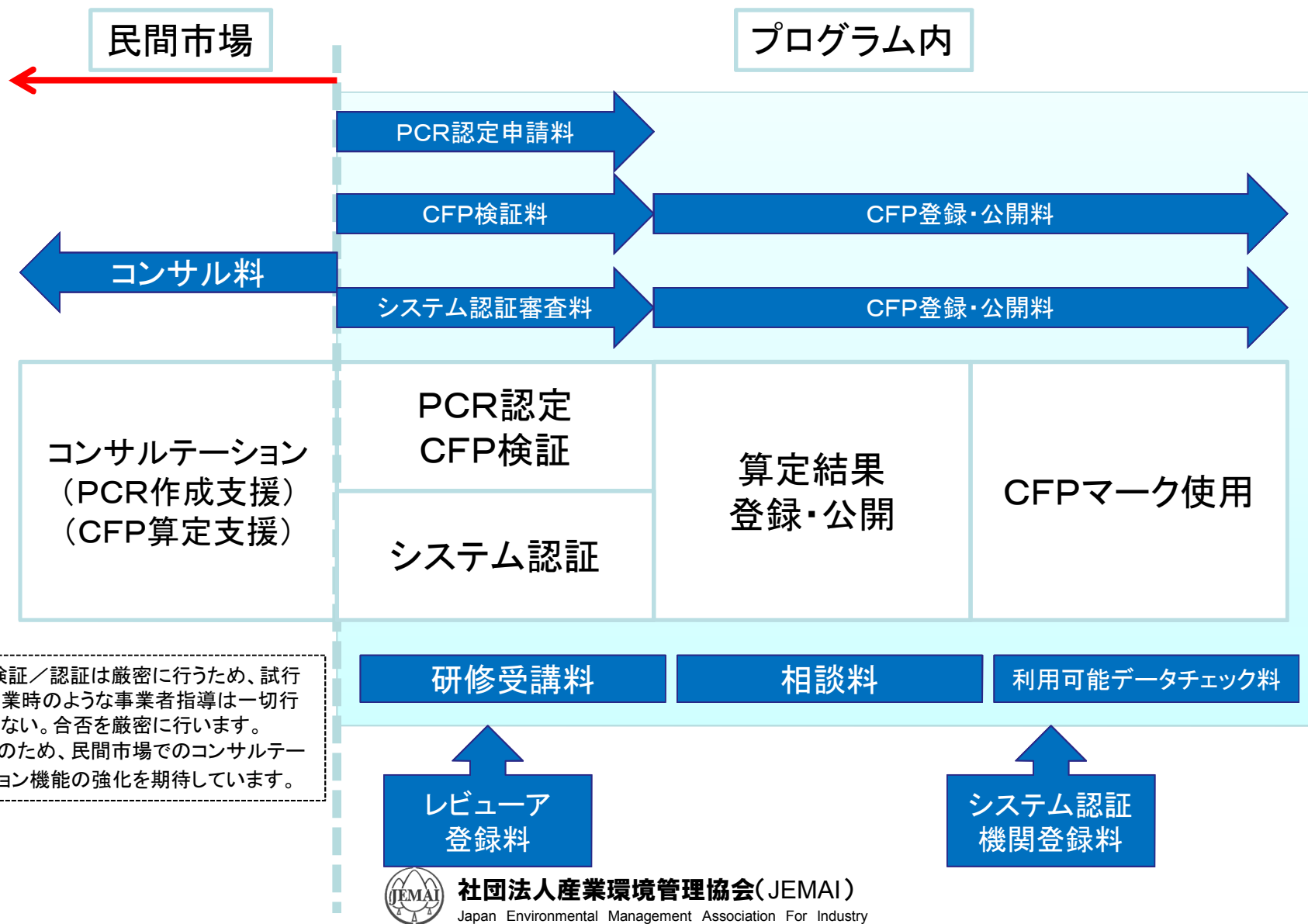
韓国KEITIやイギリスカーボントラスト社などの海外プログラム運営者との連携、あるいはEUにおける環境フットプリント制度など新たな環境規制等の政策立案組織との交流を推進





価格設定構造の考え方

2012.3.26現在検討資料

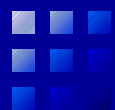


検証／認証、研修等価格設定(案)

2012.3.26現在検討資料

業務区分	対価項目	内容	基本単価	特別設定	その他
CFP検証／PCR認定／システム認証業務	CFP検証料	検証員検証作業費	105千円／製品	ただし、同時検証等の場合は、 2-5製品 5万円／製品 6製品以上 4万円／製品	工数は、概ね4時間／件を想定
	PCR認定料	PCRレビューアの作業費 事務処理費：レビューパネル運 営、認定証の発行、認定内容 の登録・公開・管理経費	115.5千円／PC	ただし、部品点数が多く、工数が 著しく多量である場合は、個別 に相談の上単価設定を行う。	事前WGへの事務局エキスパート参加の場合、 及び事前コンサルテーションが十分に実施され ている場合は、レビューアコストは省くこと可能で ある。
	システム認証審査料	システム認証審査員の審査作 業費	認証機関ごとの 設定		※システム認証機関は、1審査案件あたり、認証 料の10%(消費税込み分)をプログラム使用料 として、プログラム運営者に支払うこと。
検証／認証機関要員業務	検証員登録料／更新料	個別検証要員の事前登録	10.5千円／年		※1年更新。 ※検証／認証要員向け研修会(1回／年)受講 必須。
	認証機関登録料	システム認証機関の事前登録	210千円／年		※1年更新。 ※検証／認証要員向け研修会(1回／年)受講 必須。
	検証員／システム認証審査 員登録研修受講費	検証員、審査員に新規登録に 係る研修会への参加費	52.5千円／回		工数は、1日／回
	検証員／システム認証審査 員登録更新受講費	検証員、審査員に更新登録に 係る研修会への参加費	10.5千円／回		工数は、1日／回
研修／相談業務	CFP算定支援研修受講 料		31.5千円／回	個別依頼に基づく出張研修会は 主催者との協議により設定	JEMAI既存セミナー参照
	PCR策定支援研修受講 料		31.5千円／日	個別依頼に基づく出張研修会は 主催者との協議により設定	JEMAI既存セミナー参照
	個別相談		21千円／時間	個別依頼に基づく出張相談会は 主催者との協議により設定	JEMAIエキスパート平均単価
その他業務	利用可能データチェック		10.5千円／時間	※難易度に応じて個別協議	工数及び難度等加味して設定
	出版	CFP取得のための入門書	-	-	検討中





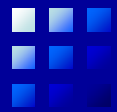
CFP登録・公開料(案) 2012.3.26現在検討資料

CFP登録・公開料は、CFP検証に合格後、登録・公開申請書による手続きの際に発生する。本経費は、情報の登録・公開・管理にかかる経費のほか、データ公開・管理、広報普及等、その他の運用管理経費(人件費及び事務費)及びマーク使用許諾料が含まれる。

・なお、販売目的でない場合、登録・公開に関する**事務手数料として10.5千円**を徴収

企業単位でのCFP製品売上額	登録・公開料(千円)消費税込み		備考
	区分	単価	
1,000万円未満	一律	21.0	・登録・公開料は、情報の登録・公開・管理にかかる経費のほか、データ公開・管理、広報普及等、その他の運用管理経費(人件費及び事務費)及びマーク使用許諾料が含まれる。 ・販売目的でない場合、登録・公開に関する 事務手数料として10.5千円 を徴収 ・区分のうち、中小企業とは中小企業基本法に定める定義による。
1,000万円以上5,000万円未満	一律	31.5	
5,000万円以上1億円未満	一律	63.0	
1億円以上5億円未満	一律	136.5	
5億円以上10億円未満	一律	273.0	
10億円以上100億円未満	中小企業	399.0	
	その他企業	798.0	
100億円以上	中小企業	525.0	
	その他企業	1,050.0	





事業者の皆様へ

◆ CFPマーク(CFPプログラム参加マーク)を取得して、地球温暖化防止行動の意思表示をしましょう。

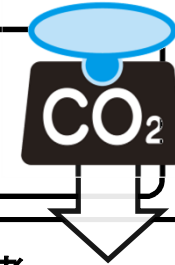
◆ CFPマークの認知度を向上させ、情報開示努力が、消費者の皆さんから選ばれるシステムに成長させましょう。

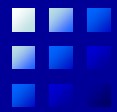
◆ CO₂排出量のホットスポットを見出し、その改善を通じて、ステークホルダーの皆さんに訴求しましょう。

◆ 第三者の検証により、取引先からの情報開示要求に対しても、信頼性の高い情報として提供しましょう。

◆ グローバル社会における環境規制強化の動きにいち早く対応しサプライチェーン規制への対応の第一歩にしましょう。

民間運営に伴い、検証／認証、マーク使用等若干の経費負担をお願いしますが、多くの仲間の皆さんとCFPプログラムを発展させていきましょう。





消費者の皆様へ

◆ まずは、CFPマークを通じて、事業者の皆さんの「CFPプログラム」への参加を応援しましょう。

◆ 応援方法は、簡単です。お店でCFPマーク付製品を見つけて選んでください。

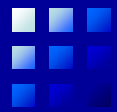


◆ ただし、ここで注意が必要です。単純にCFPマークに表示されている数字の大小で選ばないでくださいね。

◆ マークの後ろ側には、その製品・サービスに関わるたくさんの事業者の関わりや皆さんのCO₂削減のための努力がいっぱい詰まっています。

◆ その努力を見つけて、選んでいただくことを「CO₂見える化」に取り組む事業者さんは願っています。

消費者の皆さんにも使用や廃棄・リサイクルの段階でCO₂削減行動に加わっていただくことができます。
CFPプログラムを育てるのは、消費者の皆さんの応援です。



自治体等公的セクターの皆様へ

- 新CFPプログラムは、地域中小企業がCO₂削減行動に着手する上で、有効な手法
- 地域ブランドの創生(地産地消)、グリーン購入・県クレジットへの活用など地域産業振興策への活用も可能
- 他方、地域においてはCFPの算定ができる人材、支援する人材が圧倒的に不足
- 地球温暖化対策、地域産業振興の両面から支援施策のご検討を・・

CFP関連先進モデル事例

連携機関・企業等

<名古屋>

●株式会社フルハシ環境総合研究所
<http://www.fuluhashi.jp> (TEL052-324-5351) 浅井

<大阪>

●特定非営利活動法人資源リサイクルシステムセンター
<http://www.npo-rsc.org/> (TEL06-6942-0310) 阿藤

<福岡>

●株式会社アットグリーン
<http://www.atgreen.jp> (080-0888-0589) 富永

※ 連携機関募集中。

■ 愛媛モデル

「えひめCO₂見える化推進事業」

県内製品の差別化や環境配慮型製品(エコプロダクト)の普及促進を図るため県内事業者の参画を得て、「カーボンフットプリント制度」への対応を前提としたCO₂見える化事業を推進

■ 川崎市モデル

「低CO₂かわさきブランド」

LOW CARBON



<http://www.k-co2brand.com/index.html>



社団法人産業環境管理協会(JEMAI)

Japan Environmental Management Association For Industry



当面のスケジュール

	新CFPプログラム運用	広報普及活動	CFP算定等支援活動
2012. 4	4/2 経済産業省からの引継ぎ 4/2 新CFPプログラム運用開始(プログラム文書公開) 4/2 旧スキーム案件受付開始 4/末第1回CFPプログラム・アドバイザリーボード	4/1 WEBサイトの引継ぎ 4/24 新CFPプログラム全国普及セミナー(東京)	4/24 CFP算定支援研修会(東京) 4/25 CFPプログラム個別相談(東京) ※地域での開催計画検討中
5	5/7 新CFPプログラムCFP検証申請書受付開始 5/中旬 技術支援WG、企画広報支援WG開催	5/8 新CFPプログラム全国普及セミナー(大阪) 5/9 新CFPプログラム全国普及セミナー(名古屋) 5/14 新CFPプログラム全国普及セミナー(福岡) 5/29 新CFPプログラム全国普及セミナー(札幌)	5/22 CFP算定支援研修会(東京) 5/23 CFPプログラム個別相談(東京)
6	6/末第2回CFPプログラム・アドバイザリーボード		6/7 CFP算定支援研修会(東京) 6/8 CFPプログラム個別相談(東京)
7	7/2 新CFPプログラムPCR認定申請受付開始 7/2 システム認証審査申請書(認証機関にて)受付開始	7/1 新WEBサイト公開 7/初旬 新CFPプログラムスタートイベント 7/1-31 CFP参加促進キャンペーン企画 中	7/24 CFP算定支援研修会(東京) 7/25 CFPプログラム個別相談(東京)
7-11	11/末 第3回CFPプログラム・アドバイザリーボード	(参加事業者との協同プロモーション企画 中) ※ 地域合宿(地域との交流会)	
12	※ ISO14067発行見込み	12/13-15 エコプロダクツ展出展	

引継期間

本格始動

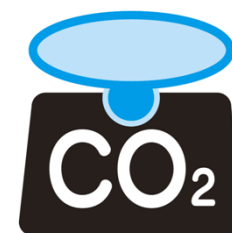


当面の目標

2012年度認知度 50%達成！

認証商品数 1,000品目の早期達成！

**(CFPマーク使用商品の市場流通)
300品目達成！**

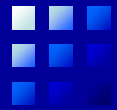




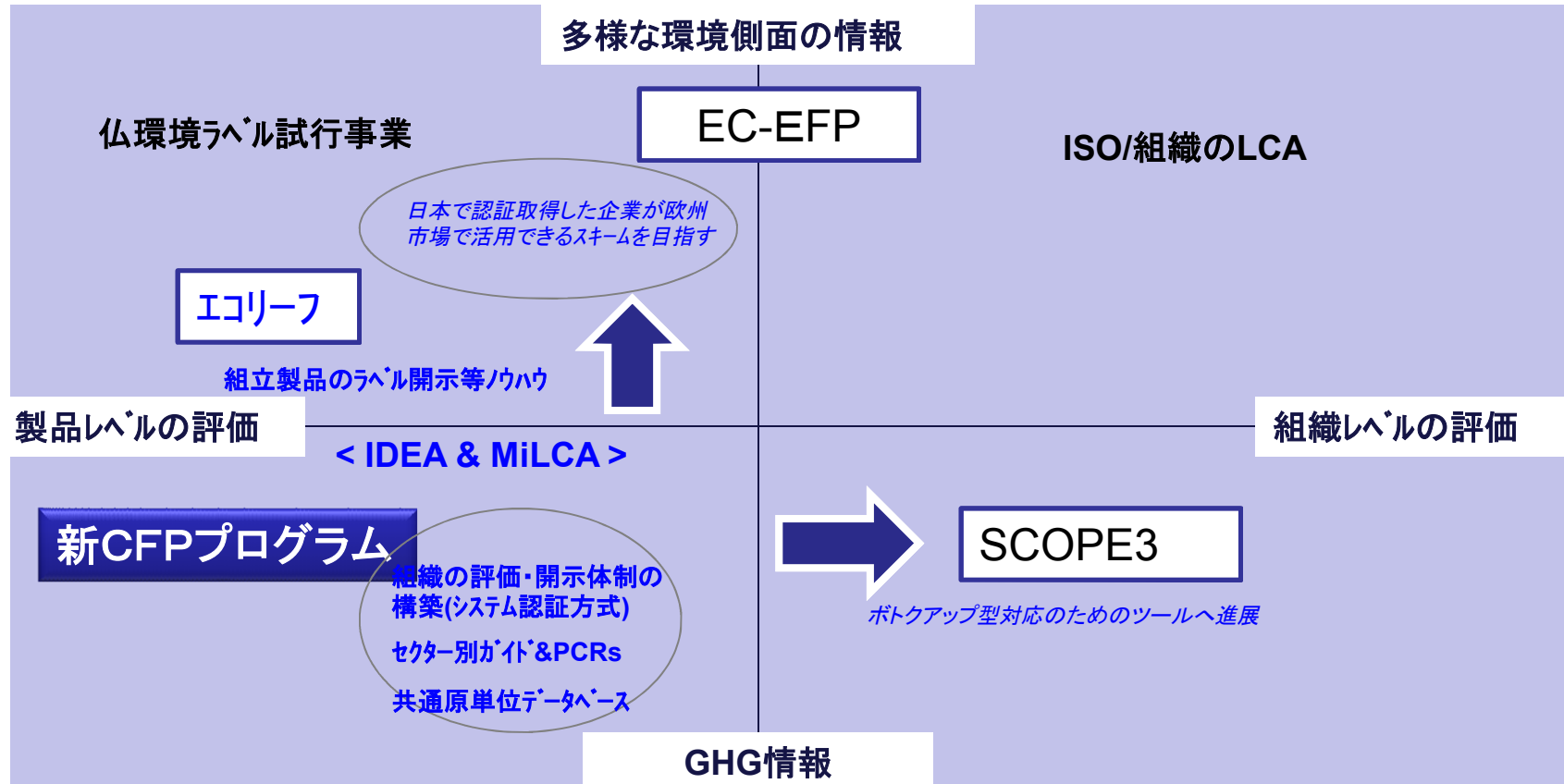
CFPプログラムの今後の展開

1. 中期5カ年計画の策定
2. エコリーフ事業との一体化の推進
(含む:海外動向への対応)
3. グリーン購入、カーボンオフセット等
他制度との連携



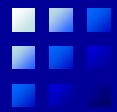


環境情報開示の展開の方向性



✓日本企業の環境経営におけるコミュニケーションの多様な評価軸(環境側面の単一⇔複数指標、製品⇔組織の評価、国内市場⇔海外市場)において、新CFP・エコリーフを包括的なツールに展開させることを目指す。





CFPプログラムをよろしく！！

CFPは、地球温暖化領域のみの環境影響を範囲とした評価手法であるが、今後は、「水」、「資源枯渇」などさらなる多様な環境影響に対しての社会的責任が高まってきます。



既に、世界的には、ISOでの「ウォーターフットプリント(WFP)」規格づくりが進められており、アメリカでは、「SCOPE3/GHGプロトコル」や「サステナブルコンソーシアム」など新たなビジネスモデルとして、環境情報開示の動きがひろがっています。

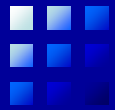
特に、フランスの「グルネル法」やEUの新たな環境戦略「環境フットプリント」などは、法的規制を前提とした義務的な情報開示制度づくりとして、その動向からは目が離せない状況となっています。

我が国の「CFPプログラム」は、これらの動向に対応するはじめの1歩です。

国の試行事業を通じて国際的にも高い評価のプログラムを、皆さんに信頼され、愛されるプログラムにして参ります。ぜひ、多くの皆さんのご利用をお待ちしています。

「CFPプログラム」は、皆さんとともに成長してまいりますので、応援お願いします





まとめ

1

CFPマークの継承

→「CFPプログラム参加マーク」として、
継承・活用。
数値表示や認知度向上のためのシンボルとして継承。

2

スキーム全体をより弾力的に推進

→PCR策定の合理化
→検証方法の多様化とスピードアップ
→2次データ使用の運用見直し
→マーク使用に関する運用追加

3

広報普及活動の充実

→WEBサイト/SNSの活用
→ワークショップ、エコプロダクツ展での展示等
→民間事業者との共同プロモーション等の実施 等

4

お問い合わせ先

社団法人産業環境管理協会 LCA事業推進センター
エコデザイン事業室CFP事業チーム 石塚、小粥

住所：〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1
三井住友銀行神田駅前ビル

E-mail：cfp-team@jemai.or.jp

Tel：03-5209-7712

Fax：03-5209-7716



■新CFPプログラム情報サイト
<http://www.cfp-japan.jp/>

